

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成31年4月4日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690101607
法人名	社会福祉法人 喜入会
事業所名	グループホーム瀬々串
所在地	鹿児島県鹿児島市喜入瀬々串町1番地 (電話) 099-343-8885
自己評価作成日	平成31年3月17日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成31年3月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・食事準備の際、盛り付け等の手伝いをいただいている。
- ・午前・午後の体操で機能の維持を図っている。
- ・地域の方を講師として招き、絵画教室、習字教室を行っている。
- ・デイサービスが併設されており、共用スペースにて体操や会話で地域交流ができるようになっている。入所されても馴染みだった方との関係を継続できる。また、新たな人々と馴染みの関係を作ることによって生活に楽しみが増える。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、谷山市街地から15分程度の距離に位置し、石油基地、瀬々串駅や郵便局、小学校、公民館などが近隣にあり、海岸沿いに立地しており錦江湾や桜島などが一望できるなど眺望も良く、利便性も良い。

開設して2年目のホームであるが、利用者を主人公と考え意欲を引き出し、本人らしくまた、個々が主体的に取り組めるよう個別のプログラムを作成し、地域活動に参加しながら地域で暮らし続けていけることを目指すといった理念を掲げ日々のケアに取り組んでいる。職員は、利用者と一緒に校区文化祭や運動会、保育園の夏祭りなどに出かけて地域交流したり、地域の清掃活動や散歩などを通じて、地域の方々との交流ができるよう支援している。また、理念を共有して実践に繋げていけるよう職員一人ひとりの意識向上を図っている。理念は、玄関や食堂ホールに掲示されている。

重度化や終末期に向けた事業所の取り組みについては、前回外部評価の結果を踏まえた上で目標達成計画に掲げて指針を整備し、重要事項説明書に「重度化した場合の対応について」と記載、重度化し治療などが必要になった場合や入院の必要性が生じた時などは、適切な医療が受けられるよう医療機関などを紹介して対応している。看取りについては、現時点で事業所の医療・看護体制がないため介護保険施設や入所可能な施設などの紹介、相談に応じるなどして利用者や家族の意向に沿えるよう取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I . 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念に基づいて理解を促し、毎朝の朝礼や勉強会などで職員間で唱和している。新規の職員には必ずオリエンテーションを行い、理念について説明している。	理念は、玄関、食堂ホールに掲示され、地域と繋がり、交流活動をしたり地域貢献したいという思いが込められているが、相互の交流は十分とはいえない。職員は、理念を共有し実現に向けて日々の実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議には地域の代表の方に参加して頂き、地域とのつながりを持つなどしている。	開設当初に比べ、1歩1歩と地域との関係性が深まってきており、利用者と一緒に地域の行事に参加は増えてきたが、地域の方が気軽に来訪される環境は実現できていない。レク活動の一環で、絵画・生け花教室の講師を依頼したり、ボランティアを受け入れるなどしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	相談に来られた地域の方へ、認知症への理解と対応についてや介護サービス利用について関する説明を行い情報提供を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居状況をはじめ、サービス利用状況や取り組みなどについて報告したり、地域交流などの状況等情報交流している。	家族は交代で参加していただく代表制にしており、地域代表の参加もあり、ホームや地域の実情や課題などを話し合いながら、地域に根差した事業所として信頼が得られるよう活動への理解や協力を依頼している。避難訓練やクリスマス会と同時開催して親睦を深めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点は問い合わせたり、包括支援センターなどの方と日常的に連絡と取り合っている。	市は、各地域にコミュニティ連絡協議会を発足させており、相互に連携や協力関係を築いている。年5～6件は緊急の入所相談があり、困難ケースの事例の相談にも応じるなど市や関係機関と連携している。市主催の研修会の案内もあり積極的に参加しスキルアップを図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会をつくり、職員の勉強会等で学ぶ機会をつくり、身体拘束をしないケアを心掛けている。	設備は、幹線道路に面した玄関はオートロック、エレベーターやユニット間の通路にもセキュリティ対策があり、安全面に配慮している。全室に眠りセンサーや必要に応じて離床センサーを活用し睡眠の状態を把握し、質の高い眠りを追求し日中の活動内容についても個別に検討している。センサーなどは漫然と使用することがないように身体拘束対策委員会で話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の場で「高齢者虐待防止法について」の勉強会を行い学び、事例等を通し職員間で「虐待」について指摘しやすい環境作りに取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後継人制度を利用されている方がおり、後見人との打ち合わせや日頃の連絡調整を通して学ぶ機会をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	解りやすく丁寧にする説明を心掛けています。契約締結の際には、適宜質問はないかを確認しながら進めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から必要な連絡を行う等、意見を伺う機会を作る。苦情相談窓口および対応マニュアルがある。運営推進会議ではご家族からの意見も頂くなどしている。	開設して2年目であるが、家族との信頼関係を築きたいという当初からの思いは強くあり、お茶会を兼ねた家族会を開催し、利用者の写真を見て頂きながら利用者の暮らしぶりを知ってもらい意見交換し、アンケート調査を実施した。意見箱は設置せず面談や行事の際に家族から意見や要望を聴取するという方針である。外出の希望が多く聞かれたため、ミーティングなどで話し合い計画的な外出支援に取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議での検討事例に時間を取り、職員の意見を反映するようにしている。	法人内の異動があるが、職員の関係性は良好で幅広い年齢層の職員が配置されており、若い職員には経験を積み重ねて自信を持って職務に取り組めるよう働き方を工夫したり、向上心を持って働けるよう資格取得やキャリアアップ制度を取り入れ職場環境や条件を整備している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善手当やキャリアアップ制度を取り入れ、資格取得に向けて職員が向上心を持って働けるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修でケアの向上を図り、外部講師による手技の勉強会を持てるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括支援センターが主催する事例検討会などの参加機会にて交流がもてるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前、利用する際に御本人の要望や御意見等を伺い、安心して入居後生活して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望にに耳を傾け、不安がある事について説明を行いながら関係作りをおこなっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面接にて詳しく話を聞き状況や状態を把握できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様が出来ることや取り組みたいことを理解し、日常生活において役割りをもって過ごしていただける関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様へこまめに状態などを報告し、理解した上で協力をして頂いている。日頃から会話と通してご本人様の思いをくみ取るように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人のご面会時には、出来るだけ、特別な理由がない限りは解放的にしている。また職員は関係についても把握するように努めている。	絵手紙のやりとりをして近況を知らせたり、携帯電話で自由に連絡を取る方、美容院や自宅訪問、外食など家族の協力をもらいながら外出ができるよう配慮している。また、活け花の生徒から誕生日祝いの花が送られてくるなど馴染みの関係が途切れることがないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	おやつ時間や水分補給時に職員も中に入り、個々に話ができる雰囲気づくりを努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後にこちらから連絡をとることはないが、偶然の出会い等で近況を伺うことがある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴把握し、暮らし方の希望の把握し、話し合いながら希望に沿えるように努めている。	入所前の生活歴や家族からの情報を参考にして、本人の思いや希望を把握したり、日々の暮らし中で本人の発言や行動、表情などから思いや意向を共有し本人に寄り添う介護を心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメントでご本人様・ご家族様より情報を集め、在宅サービス利用状況の状況を担当ケアマネより提供して頂きよりこれまでの生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のアセスメントで生活パターンを把握しその方に適した暮らしができるように、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	正しいモニタリングで評価し、ケアカンファレンス実施で意見交換し、次回の介護計画に生かしている。	カンファレンスは、支援困難ケースのサービス内容の見直しやモニタリング結果を踏まえた意見交換を実施し、課題の抽出を行い、担当者会議では本人の思いや意向を共有した上で家族、職員、関係者と話し合っている。本人のこれまでの習慣や楽しみごとが反映した介護計画書を作成するよう努めており本人らしい生活の実現を目指している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護の際に、ご本人様の言葉・行動を記録に残し、職員全員が把握できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	環境の変化、ご家族様の思いに十分に配慮し、取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を文えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や美容室へ行って安全で豊かな暮らしができる関係づくりをしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの病院や希望する病院への受診で適切な医療を受け、協力医療機関との連携も含め、日常の健康管理に努めている。	本人、家族が希望するかかりつけ医となっており、定期受診は職員が対応するが、緊急時や他科受診などは、家族に協力をもらったり、文書にて情報提供書を作成している。夜間は、救急車を要請し協力医療機関と連携し適切な医療が受けられるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週間に一回程の外来受診や外来リハビリなどの際に職場内の看護師に報告または電話等で、今後の指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した場合は、入院先へ最新の情報提供書などをお渡ししている。備えとして、通常のかかりつけ医にも定期受診の際に、入院治療時の情報を伝えるなどしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や、終末期のあり方について、家族等と面談し、敏速に方針を決め、方針の共有と支援をおこなっている。	前回、外部評価の結果、目標達成計画にて改善に取り組み、「重度化した場合の対応」としてホームの指針を定めるとともに、利用者、家族に対しホームの方針や対応方法を明確に表記し、重要事項説明書にて同意を取っている。また、「家族意向書」を作成し、本人、家族の意思を確認して文書を取り交わしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成しており、定期的に確認をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練（昼間・夜間想定）を行い避難経路や誘導の仕方、消火器訓練を実施し、運営推進会議にて火災時の協力等においてもお願いをしている。	地域や法人、職員の協力体制があり、年2回避難訓練を実施している。災害マニュアルがあり、台風接近や強風対策として、1階には風切りネット、強化ガラスを設置している。LEDライト、水、米などの備蓄があり井戸も活用できるが、生活用水を浴槽に溜めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を傷つけない言葉かけを職員間で注意を促している。特に声掛けの名前を呼ぶ際など気を付けている。	新人職員研修や現任職員の研修を実施し、不適切な言葉使いや対応をしないよう職員同士で指摘しあうなど心がけている。特に、普段の声かけや声かけのタイミングなどには注意を払うよう徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動前に声掛けし、同意を得られるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	話し合う事を心がけ、希望を聴き取りその人らしい生活の中で暮らせるように支援する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	モーニングケアの際に、髭剃りやお化粧・イヤリング・洋服などに気をつかうようにしている。汚れやほころびなどがあつた場合はすぐに対応できるようにしている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ホワイトボードに「本日の献立」をご入居者様にわかるように掲示している。食事の盛り付けやお茶碗洗いを一緒にしている。	食前に献立の説明を行い、副菜などは、1階厨房で調理担当がおこなう。ユニットでは、職員が炊飯と味噌汁を調理し、料理の盛り付けは、利用者と一緒にこなっている。マイ茶碗や湯呑であり、居室でお茶を楽しむ方もいる。外食は、家族に協力をもらいながら個別で楽しんでいる。	

12

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事が食べにくい方は一口大やお粥など、形態を調整する。高カロリーゼリーなどで不足している栄養素を補っている。お茶やコーヒー・紅茶など選択していただき提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	御自身で口腔ケアがしにくい方に支援をしている。介助ブラシやスポンジを使用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	夜間は排泄時間を決めてパット交換と誘導で確認している。日中も声掛けを行い定期的にトイレ誘導し確認している。	各居室に洗面台やトイレが設置してあるが、共用トイレも併用し排泄の自立支援をおこなっている。トイレの場所が理解できない方があり、カンファレンスなどで解決策を検討している。昼間はリハビリパンツから布下着へと改善した方がおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日食事と水分量の確認をし、水分量の少ない方には紅茶など目先のかわったものを提供している。敷地内の散歩を進めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴予定日はあるが、外出の前日やヘアカットなどの理由で入浴ができるよう支援している。	基本的には、週2回、夏場は必要に応じて回数を増やすよう清潔支援に取り組んでいる。身体の循環を考えてなるべく浴槽にゆっくり浸かってもらっている。ゆず湯などを楽しみ、季節を感じられるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の心身の変化を確認し、身体を休めて頂いて。個人の好みに合わせて枕の高さや寝具の調整をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	どのような薬を服薬されているかある程度の理解はある。状態の変化があった際、記録を取り、薬の見直しを医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の能力に合わせて、植物への水やり・洗濯たたみ・食事準備・テーブル拭き等の役割がある。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族と外食や買い物に行かれる方もおられる。	天候や体調をみて、海岸に散歩に行ったり、年間の行事計画を作成し、地域行事（七夕祭りや十五夜、小学校の運動会の見学、コスモス見物など）に外出している。また、外来受診の帰りに行きつけの店で好きなコーヒーを飲んで帰る方がおられる。外出の際は、歩行補助具を活用し安全な歩行ができるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様で管理できる方はご本人で管理され、外出された際に買い物をされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	事前にご家族様に相談し、本人から要望ある時には取り次いでいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は掃除をおこない、清潔に保つようにしている。	1階には、リハビリ特化型デイサービスがあり、2階が居住スペースになっている。両ユニットは、扉で仕切られているがセキュリティ対策もされ、思い思いに行き来している。対面式キッチンがあり、食堂は明るく掃除が行き届いており、錦江湾や桜島の眺望は利用者や家族などの満足感を満たしている。壁には、絵画教室の作品や講師のスケッチなどが掲示してある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな椅子の場所で腰かけて会話を楽しんだり、テレビ鑑賞や音楽鑑賞ができる工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れて家具や装飾品を持ち込んだり、空気清浄加湿器など使用している。	日本画や山歩き、新聞の切り抜きなどの趣味が伺える居室や生け花の師範の方は、桜の木が活けてある。マッサージ機や抱き枕、ぬいぐるみなど愛着のある物や使い慣れた物を持ち込み居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	文字がわかる方にトイレの位置がわかるよう扉に「トイレ」と表記し、認知して頂いている。認知ができることでトイレに行き、排泄することができる。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
		○	3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない